

東京国立博物館ニュース

TOKYO NATIONAL MUSEUM NEWS

2026年 夏号

| vol. 785 |

シリーズ 東博コレクション展を探索!

金剛力士立像①

今号の表紙

紅糸威二枚胴具足

もっと読みやすく、身近に。
ニュース、リニューアル!



館長インタビュー

今年、東京国立博物館は創立154年を迎えます。日本で最も長い歴史があり、所蔵する文化財は質、量ともに日本を誇ります。長い歴史のなかで果たしてきた役割や使命をふまえると、未来に向けて担うべき責務はますます大きくなっています。

このたび『東京国立博物館ニュース』リニューアル初号の節目にあたり、これからの当館が進むべき道や目指す未来について、館長・藤原誠に聞きました。



受け継ぎ、進化する — 東京国立博物館が描く未来

東京国立博物館長 ふじ わら まこと 藤原 誠

— 当館が目指す未来を見据えた
運営方針について

当館は、2024年11月に、現在の本館の開館100年にあたる2038年に向けて、東京国立博物館2038ビジョン「いにしえから宝物を創ってきた人々の想いを、いまを生きる力にする」を発表しました。これは、先人たちの築き上げた資産を後世に伝えるとともに、時代の変遷にあわせて常に進化を続けていくという、当館の基本的な姿勢にもとづくものです。本年文部科学省が策定した独立行政法人国立文化財機構の中期目標^{*}は、収益強化やDX化、国内外への貢献、インクルーシブな環境づくりなどの観点からも、基本的には当館が今までに推し進めてきたこと、またはこれから取り組んでいくことが改めて明文化されたものと考え、引き続き、法人傘下にある当館の取り組みとして、根本的なひとつの柱と考えています。

— 博物館運営の施策のなかでも
外部連携を積極的に進めています

文化財を魅力的に展示し、多くの方にみていただき理解を深めていただく、保存・修理をし、後世に文化財を伝えていく、といった社会的使命を十分に果たすためには、効果的な外部連携が重要です。民間企業の方々との関係でいえば、できるだけトップの方と直接お話しして当館の事業をご理

解いただき、寄附や協賛、賛助会員としての定期的な支援などをいただいています。企業と研究員との共同研究で館内の有機E1照明を開発するといった取り組みも行いました。また、さまざまな専門的交流を深め、研究の質、量を高めていくためには、博物館や大学との連携も欠かせません。国内では、龍谷大学、東京藝術大学と包括連携に関する協定(MOU)を結びました。龍谷大学とは、すでにMOUを結んでいる韓国・国立中央博物館、中国・旅順博物館とも連携して、シルクロード文化交流の研究に取り組んでいます。東京藝術大学とは、同大の世界的な教育水準と専門人材、そして当館の文化財に関する専門性を生かして芸術教育と芸術文化の振興を進めています。今後の成果を楽しみにしていきましょう。

海外の博物館との交流も積極的に進めています。

す。現時点でMOUを結んだ館は計28館(2026年5月1日現在)となりました。アジア圏で15館。その他、アメリカは、国立アジア美術館、サンフランシスコアジア美術館、ボストン美術館の3館。ヨーロッパは、フランスのギメ東洋美術館、イギリスのオックスフォード大学付属アシュモリアン美術館、オランダのアムステルダム国立美術館、チェコのプラ



ハ国立美術館、ドイツのプロイセン文化財団などの8館。中東圏では、UAEのアブダビ文化観光局、トルコのサキブ・サバンジュ美術館です。世界中に日本美術が収蔵されているなか、当館がそのネットワークの中心となることで日本文化への理解を広め、日本を代表して国際貢献を果たしていきたい。いわば「地球儀を俯瞰する文化外交」として考え、取り組んでいます。

—来館者の多様化について 試みていることはありますか

博物館の未来を語る時、若年層の来館者をどう増やしていくかは外せない課題です。調査によると、子育て世代にとって「博物館は静かに見学するところ」という点が高いハードルになっています。「トーマクキッズデー」(9ページ)や昨年度開催

した「あそびば①とーはくー」などのイベントを定期的に開催し、子どもが安心して過ごせる環境を整えることで、保護者が子どもと一緒に来館いただける博物館にしていきたいと思います。もちろん若年層に限らず幅広い年齢層や障害のある方々にも博物館を安心して楽しんでいただけるように、バリアフリーなど施設整備、音声ガイド、ダンス、車椅子貸出しのほか、盲学

校の生徒向けのスクールプログラム、東洋館インクルーシブプロジェクトなど、触感や音を通して作品への理解を深めていただく試みに、一層力を入れています。海外から来館くださる方々には引き続き、英語、中国語、韓国語をはじめとする多言語での展示解説を充実させていきますし、国際連携や海外展なども強化し、日本や東洋の文化、歴史への関心をさらに高めていきたいと考えています。

—これからの東京国立博物館が 進む道、未来への展望とは

将来を見据え、より充実した事業を展開していくためには、まず、経営面での改革にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。日々の業務運営だけではなく、収支を戦略的にマネジメントすることで、常によりよく発展し続ける博物館でありたいからです。そしてもうひとつは、先ほども申し上げた国際的な顔としての存在感です。多くの海外の博物館と連携するなか、日本美術、日本文化についてはその中心に当館があり、当館がハブとなつて日本の文化芸術のすばらしさを世界中の人に伝えていく。そしてさらに日本を好きになっていただく。これがまさに国立博物館としての存在意義、負うべき責任ではないかと思っています。それを進めていくことによって博物館の未来は開かれていくと考えています。

*独立行政法人国立文化財機構が達成すべき業務運営に関する目標

特別企画 平成館企画展示室 6月16日(火)～8月23日(日)

ビフォー縄文 旧石器時代発見80周年

日本の歴史のはじまりは縄文時代から、というのがかつての考古学の常識でした。その常識を覆したのが、群馬県岩宿遺跡を発見した相澤忠洋です。相澤は幼い頃より考古学に強い関心を持ち、仕事のかたわら土器や石器の採集に熱中していました。そうしたなかで、群馬県岩宿の崖から数点の黒曜石の欠片を発見。これがきっかけとなり岩宿遺跡の発掘と「旧石器時代」の発見につながりました。

本展では旧石器時代発見80周年を記念して、岩宿遺跡の資料を中心に、日本の旧石器文化についてご紹介します。あわせて、世界の旧石器時代の代表的な資料についても展示します。本展が広く旧石器文化をしていただく機会となれば幸いです。(飯田茂雄)



登録有形文化財
岩宿遺跡採集石器
槍先形尖頭器

群馬県みどり市 岩宿遺跡採集
(相澤忠洋資料)
後期旧石器時代・前2万3,000年
群馬・岩宿博物館蔵

槍の先端に装着して、動物の狩猟や
ナイフとして使用しました



ハンドアックス

フランス、ソンム県 サン・ダシュール遺跡採集
前期旧石器時代・前45万年～前35万年
H・W・シートン＝カー寄贈

手に持って使う斧で、動物の解体や切
削などさまざまな用途に使われました

特別展 内山晋コレクション受贈記念 本館A室 9月29日(火)～12月20日(日)

歌川広重 江戸のベストアングル

江戸時代後期に活躍した歌川広重(1797～1858)は、四季の移ろいを映し出した風景画や、色鮮やかな花鳥画で一時代を築いた浮世絵師です。とくに代名詞ともいえる風景画では、すぐれた画面構成力によって日本各地の風景の魅力を描き出し、旅への関心が高まっていた江戸時代後期の人々の心をつかみました。

このたび当館では、広重のコレクションで知られる内山晋氏旧蔵の浮世絵1,025点を受贈しました。本展ではこの収蔵を記念し、広重の代表作である「東海道五拾三次」「木曾海道六拾九次」「名所江戸百景」の三大シリーズを中心に、風景画、花鳥画の名品300点を3期に分けてご紹介します。広重がとらえた「江戸のベストアングル」を、ぜひご堪能ください。(村瀬可奈)

1・2・3期で全作品展示替えとなります。

1期：9月29日(火)～10月25日(日)

2期：10月27日(火)～11月23日(月・祝)

3期：11月25日(水)～12月20日(日)

急な雨に、足早に急ぐ人々の姿

名所江戸百景 大はしあたけの夕立

歌川広重筆 江戸時代・安政4年(1857)

展示期間：11月25日(水)～12月20日(日)

川と橋を斜めにとらえた不安定な構図が、夕立の臨場感をかきたてます



「天下の嶮」とうたわれた急勾配

東海道五拾三次之内
箱根 湖水図

歌川広重筆 江戸時代・天保4

～6年(1833～35)頃

展示期間：9月29日(火)～
10月25日(日)

東海道の難所、箱根越えの険
しさを迫力たっぷり描きます



紅糸威二枚胴具足

本館15・16室 武士の装い—平安～江戸
7月7日(火)～9月27日(日)



背中には
ほん多
本多内匠
たくみの助
と金字で記されています



紅糸威二枚胴具足 江戸時代・17世紀

兜にサザエ!? 変わり兜にみる戦国武将の矜持

螺旋形の変り兜に、西欧の甲冑を模した南蛮胴を組み合わせ、魚の鱗のような袖と佩楯を備えています。さらに、兜、草摺、袖、佩楯を金箔で飾り、面具は朱漆塗で、胴は錆地としています。奇抜なデザインと華やかな色彩により、さぞ戦場で注目を集めたことでしょう。その意表を突いた造形は、現代の私たちがみても驚かされます。

変わり兜とは、その名のとおりに変わった形の兜のことです。戦国乱世から天下統一へと向かう安土桃山時代(16世紀末)に登場しました。本作品では、和紙などで栄螺の複雑な形をつくり、漆で塗り固めて金箔で飾り、鉄製の兜本体にかぶせています。この技法を張懸(はりかけ)といい、変わり兜の製作で多用されます。栄螺は古来縁起物であり、丈夫な殻が堅い守りに通じることから戦国武将たちに好まれ、兜の意匠に取り入れられました。

甲冑は本来的には身体を守る実用的なものです、それと同時に戦いを生業とする武士にとっては自らの活

躍をアピールするものであり、生死を懸けた戦場では死に装束にもなります。そしてさまざまな材料と技術を用いて製作され、世界的にみても色彩や意匠が豊かであることもみどころです。まさに究極の勝負服であり、戦う芸術ともいえるでしょう。

日本の甲冑の特質として、実用的な機能性、人目を引く装飾性、武家としての象徴性があげられます。変わり兜は、人智を超えた力を身に宿し、戦場で自らの存在と武威を示すことで、味方を勇気づけ、敵をひるませるといふ、機能性を超えた装飾性と象徴性を備えています。軍を率い、腕に覚えのある武将は、そのことをよく理解しており、自らの美意識や覚悟を具現化した変わり兜をかぶって、命を懸けた戦いに臨んだのです。だからこそ、勇ましく美しく、私たちは心ひかれるのでしょう。そして、変わり兜に象徴される戦国武将の矜持は、現代社会において組織を率いるリーダーに求められることと、本質的に同じものではないでしょうか。(佐藤寛介)

東博コレクション展を深掘りする連載企画
今号より4回にわたり、金剛力士立像の魅力を多角的に探ります



金剛力士立像 平安時代・12世紀
通年展示

あ ぎょう
阿形

「あ」と口を開き、鋭い眼差し、
しなやかで優雅な立ち姿がみごと

金剛力士立像（仁王像）は、お寺を守るために、入口の門に安置される仏像で、「阿形」と呼称の二体で対を成しています。人々を迎えるその頼もしい姿は、まさに守護神です。

第1回目は当館の増田研究員が、作品のみどころや展示において工夫した点などを解説します。

平安から昭和まで

お寺と人々を守り続けた仏像

当館の「金剛力士立像」は平安時代後期、12世紀の作です。元々は滋賀県栗東市の蓮台寺というお寺（現在はもう残っていません）の門に安置されていました。が、1934年の室戸台風で門とともに

に大破してしまいました。当時、地元の人々が像の復元を願ひ破片を拾い集めたそうです。日頃から人々に親しまれていたのでしょう。しかし、再興はすぐには叶いませんでした。

大破から長い時を経て

復活!

それから約30年たった1968年、彫刻修理を手掛ける公益財団法人美術院が研究資料としてこの破片を購入して仮組みをしました。しばらくは仮組みの状態ですが京都国立博物館に保管され、その後、約2年をかけて本格的な修理が行われます。すべての部材を取り外し、ひとつずつ確認しながら組み立て、表面の補修も行つことで、かつての

力強い姿が蘇りました。そして2022年、平安時代の金剛力士立像はとも貴重であり、研究史上でも大変価値があるということ、当館にて収蔵することになったのです。

多くの方にご覧いただくために 展示室をリニューアル

当館に収蔵後、初めてお披露目したのは、特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」(2022年10月18日(火)〜12月18日(日))です。その後、より多くの方にご覧いただくために本館1室(旧11室)で展示を行うことになったのですが、展示できる場所がない。その一番の理由は大きさです。高さが約3メートル近い像なので、既存の展示ケース、展示台には収まらない。どこにどう展示するか、彫刻担当の研究員、展示環境を整備する部署、展示運営をする部署などともに何度も話し合いを重ねました。最終的に、仁王像は入口で人々を迎え入れる存在であるとの考えから、入口の左右に展示すること意見が一致しました。そのために本館1室を全面リニューアルすることになりました。



ます だ まさ ぶみ
増田政史 (日本彫刻)

便利グッズが好きで、調査や展示に使えるものがないかよく探しています。



吽^{うん}

金剛力士立像の魅力を際立たせる 専用の展示台とこだわりの照明

リニューアルでは、展示台も専用のものをつくりました。背中側や顔の表情などみえにくいところまで、さまざま

な角度からご覧

いただけるように、

空間の取り方や高

さなどを調整しま

した。照明も上から

だけでなく横から

も下からもあたる

ようにして、筋肉の

凹凸など、この像の

質感や立体感が際

立つように工夫し



うん ぎょう
吽形

「うん」と力を込めて口を閉じ、どっしりと武骨な構えが特徴的

ました。展示台の表面は、像が室内でなく屋外に立っていることをイメージしていただけるよう、小松石という素材で仕上げています。

圧巻の存在感と 対比と調和の造形美がみどころ

こうして展示に工夫を凝らしたこと

もあり、当館の金剛力士立像は実物を

ご覧になってこそ、その魅力をご堪能い

ただけだと思っっています。何より体感い

ただきたいのはこの大きさです。そして

私が特にすばらしいと思うのが、二体

の造形のコントラストです。阿形は、左

腕を振り上げて、腰を少し左に張り出

し、各部のつながりが自然に表され、大

変しなやかな体つきをしています。一方

本館1室 彫刻 増田研究員のおすすめ作品

ぼ ざつ はん か ぞう
菩薩半跏像

和歌山県東牟婁郡智勝浦町那智山出土
飛鳥時代・7世紀 北又留四郎氏他2名寄贈

10月4日(日)まで

霊山でしられる和歌山県の那智山から出土した金銅仏です。片足を組んで頬杖をつくのは、瞑想したり人々を救うために考えている姿です。



次回は、金剛力士立像の修理について探求!

で吽形は、下半身に重心があり、胸も張り気味で肩をグツといからせて、武骨な力強さが表現されています。二体はこのように対照的でありながら、一対の像としての調和もとれているのがこの像の魅力的なところ。当館にいらした際には、ぜひお好きな方向からこの像をじっくりご覧になり、お気に入りのポイントやアングルなどをみつけていただけたら嬉しいです。

9 収蔵品管理

博物館の活動は、展示や催し物、文化財の調査研究や保存、情報アーカイブなど、多岐にわたります。当館の運営に関わる仕事を、さまざまな角度からご紹介します。



いとう しのぶ 列品管理課
市元壘 登録室長(東洋考古)

色々なことに興味があるので図書館は強い味方です。昨年度は150冊ほど借りました。

みえない仕事の積み重ねが 文化財の未来を守り、 ミュージアムの基幹を担う

今、世界各地のミュージアムは、収蔵品の増加に収蔵スペースが追いつかない「収蔵危機」の問題に直面しつつあります。当館も例外ではありません。収集が必要な文化財を適切に受け入れ続けるためには、課題を先送りにせず、着実にリスクを減らしていくことが重要です。

そのためにまずは収蔵状況の調査により現状を把握し、必要に応じて保管場所の変更や収蔵棚の増設などの措置を講じています。またそうして確保したスペースに、文化財害虫などが発生しないよう、餌となり得る塵や埃の発生状況にも目配せをする必要があります。近年は外部からの保存環境への影響を減少させるため、館内での土足通行区域の見直しを行うなど、職員の業務の安全性と利便性に配慮しつつ、収蔵環境の維持と改善に取り組んでいます。

登録室ではこうした収蔵庫の管理業務のほかにも、収蔵品台帳の整備、文化財の収集と保管に関する諸手続き、学芸全般の運営事務、収蔵品撮影などさまざまな業務を行っています。いずれも文化財を適切に管理していくために不可欠かつやりがいのある仕事です。業務の性質上、私たち登録室員は来

館される皆様と直接お目にかかる機会はほとんどありませんが、関係部署と連携しながら、今日も館内のどこかで東博の未来に向けた課題解決に努めています。

当館のような人文系の博物館が何を収蔵しているのかというと、極論すればそれは「人類の過去」です。およそヒトの思考は、一瞬でも過去に起きた出来事や経験、つくられたものなど、過去の生成物にもとづきます。過去が私たちの考えや行動を支えているわけです。過去を収蔵する博物館が社会に存在する意義は、こういうところにあるのかもしれない。そんな人類の過去に囲まれたこの仕事が、私はたまらなく大好きです。



保存科学課や調査研究課の職員とともにガラス乾板の状態を確認

文化財を、次世代へつなぐために。

—子どもと保護者に向けた東博の取り組み—

海外のミュージアムへ行くと、展示室で作品について自由闊達に意見を交わす子どもたちの楽しそうな光景をよく目にします。博物館教育課が実施している「トーハクキッズデー」では、まさにその光景が当館で広がります。文化財を次世代につないでいくため、学校向けのプログラムや高校生向けのキャリア講座、子ども向けのワークショップなど、多数のプログラムを継続的に実施しています。

当館では、2024年度に「子育て世代の来館者・非来館者調査」を行いました。その結果をできる限り反映して企画したのが、「あそびば😊とーはく!」です。0歳から小学生の子どもたちが、遊びながら楽しく日本の文化にふれ、会場内には授乳・おむつ替えスペースや水分補給スペース、カームダウンスペースなどを設けて、保護者が子どもと一緒に来館しやすい環境づくりに部署横断で取り組みました。この企画が契機となり、本館地下1階に授乳室、平成館1階にファミリースペースが新設され、ミキハウス様より多大なご支援を賜ることになりました。

子どもたちが文化財に関心を持つ機会を得られないまま、その楽しさや大切さをすることなく成長してしまうことに、私たちは危機感を抱いています。

「トーハクキッズデー」情報！

7月24日(金)・25日(土)に、「トーハクキッズデー」を開催します！さらに、今年度は毎月第4日曜日に「プチ・キッズデー」を開催しています。

イベント情報等、詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。



2026年「あそびば😊とーはく!」会場風景(会期は終了しました) ©佐藤基

東京国立博物館2038ビジョンのなかで「子どもが楽しめる場づくり」と掲げたのは、そのような背景があります。もし、展示室で子どもたちが作品についてお話をしていたとしたら、よほどの大声でない限り、どうか温かい目で見守っていただけたらと思います。そのことが、未来の文化財を守ることにつながるもの^{こじま けい}と信じています。

(広報室 小島佳)

カームダウンスペース：音や光などの刺激にストレスを感じたり、緊張や不安が高まった時に、心を落ち着かせるための場所



平成館 ファミリースペースの内部。授乳・おむつ替えスペースなども設置しています

読者が選んだ
「私のお気に入り」①

重要文化財 しゃ こう き ど ぐう
遮光器土偶

本コーナーでは、読者の皆様から寄せられたお気に入りの作品を取り上げて、担当研究員が解説します。

今回は、「遮光器土偶」。

「想像力をかきたてられる」「不思議な形で古代のロマンを感じる」「縄文美術が好き」「社会科の教科書でみた」「都市伝説的なたずまいが好き」「とにかく可愛い!」「永遠にみていられる」など、年齢や性別を超えて幅広いファンを獲得している作品です。



青森県つがる市木造亀ヶ岡出土
縄文時代(晩期)・前1000～前400年
通年展示



しな がわ よし や
品川 欣也 (日本考古)

地元が同じ青森なので小学生のころからしていた土偶です。縄文時代や縄文文化を紹介するうえで欠かせない存在であることから、いつも頼りに思っています。そんなこともあって、東博で一緒に働けることに喜びを感じています。

まず「土偶」とは何か、からお話ししましょう。土偶は、縄文時代に全国各地でつくられた粘土製の人形です。成人女性で妊婦の姿をしたものが多くみられ、豊穡や安産、子孫繁栄などを願う祈りの道具として、まつりなどに用いられていました。

当館の遮光器土偶は、縄文時代の終わり(紀元前1000年～紀元前400年)につくられたもので、今から140年ほど前に青森県つがる市の亀ヶ岡遺跡から発見されました。このようにかなりデフォルメされた印象的な姿だったこともあって、当時の考古学界でも大きな話題になったようです。遮光器というのは現代のスノーゴーグルのことで、誇張された目の形が似ているために名付けられました。以来現在まで縄文時代を代表する存在となっています。教科書にも掲載されたので、皆様一度は目にされたのではないのでしょうか。

全身を覆う文様もこの土偶のみどころ。文様には地

域や時期ごとに厳しい規定があるなかで、この土偶が文様を点対称や線対称で配置するなど、表現に細かな工夫を凝らしている点にもぜひ注目してください。実はX線CT画像をみると、その内部には、少し粗削りな人の手の跡、指の形が現れてくるのです。3000年以上も前に、私たちと同じくこの日本列島に暮らした誰かの手が、一生懸命土を捏ねてつくったのだなぁと思うと、縄文時代がとても身近に感じられます。

縄文時代は人々の職業や役割に境目がない、いわば「皆の時代」です。土偶も特別な作家や職人がつくるのではなく、皆が皆のためにつくっていました。ですから、多くの方にみていただきたい。祈りの対象も子孫繁栄や豊穡に限らず、何を祈ってもいいのだと私は思っています。もし、まだこの遮光器土偶の実物をご覧になったことがない方は、ぜひ当館にあいきていただき、何か願い事をしてみようというのも楽しいかもしれませんね。

ミュージアムショップ

遮光器土偶の模様を刺繍で表しました。
当館ミュージアムショップで販売中です。

マスコット 土偶
1,210円(税込)



お気に入り作品募集

当館所蔵作品のなかからお気に入りの作品を教えてください。詳しくは11ページの特別展チケットプレゼントコーナーをご覧ください。

館内レストラン・カフェがリニューアル

東洋館のレストラン・カフェと法隆寺宝物館のレストランが、リニューアルします。東洋館は8月下旬に、法隆寺宝物館は9月中旬にオープン予定です。

メニューや内装は、当館アンバサダーで空間デザイナー・料理研究家の行正り香氏にご監修いただきました。

ご鑑賞とともに、お食事の時間もどうぞお楽しみください。



東洋館レストランメニュー



東洋館カフェメニュー

※メニュー画像は、実際の提供内容とは異なる場合があります。

特別展紹介

弘法大師生誕1250年記念 特別展「空海と真言の名宝」

平成館特別展示室 7月14日(火)～9月6日(日)

Information インフォメーション

●開館時間

9時30分～17時00分
毎週金・土曜日、7月19日(日)、9月20日(日)～22日(火・祝)
は9時30分～20時00分
黒田記念館は9時30分～17時00分
※入館は閉館の30分前まで

●7-9月の休館日・閉室情報

月曜日(ただし祝・休日は開館し翌平日休館)
※8月10日(月)は臨時開館します。
※特別展、東博コレクション展(旧総合文化展)、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当館ウェブサイト等をご覧ください。

●観覧料金

一般1,000円、大学生500円
障害者とその介護者各1名は無料。満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。敬老の日(9月21日(月・祝))は、東博コレクション展のみ観覧無料。

特別展などの開館日・開館時間、観覧料金は別途ご確認ください。



東京国立博物館
ウェブサイト

<https://www.tnm.jp/>

●賛助会のご案内

東京国立博物館の運営趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。個人と団体向けに、それぞれ寄附金額に応じた特典をご用意しています。

●託児サービスのご案内

正門プラザ内託児室にて、託児サービスを実施しています(有料。事前予約制)。当日空きがあれば、予約なしでご利用いただくことも可能です。

●特別展チケットプレゼント

開創700年記念 特別展「大徳寺 本朝無双之禅苑」(10月14日(水)～12月6日(日))の無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は9月30日(水)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事、お気に入りの当館所蔵作品とその理由*をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

*お寄せいただいた作品やコメントは、10ページの「読者が選んだ『私のお気に入り』」に掲載することがあります。
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース2026年夏号」プレゼント係



探して! 東博の“ココ”が好き

当館職員の「好きな場所」や「お気に入りもの」を、理由やエピソードとともにご紹介する新コーナーです。
「好き」に迫るクイズも出題します。
初回は広報室のUさんです。

東博の屋外には多くの像が展示されています。東洋館の隣には、本を読む男性像がひっそりたたずみます。ご来館の際は、読書の邪魔にならないように、ぜひ挨拶してみてください。

Q イギリス人の彼の名は「善那」。なんと読む?

答えは本ページの左下にあります





東京国立博物館ミュージアムショップ MUSEUM SHOP

もつとワクワク、
もつとトーハク

お目当ての展示を心ゆくまで堪能した後の
もうひとつのお楽しみ、館内のショップめぐり。
皆様のお越しをお待ちしています。



ONLINE SHOP

<https://www.tnm-shop.jp/>

トーハク ミュージアムショップ



東洋館店



正門プラザ店

本店(本館1階)

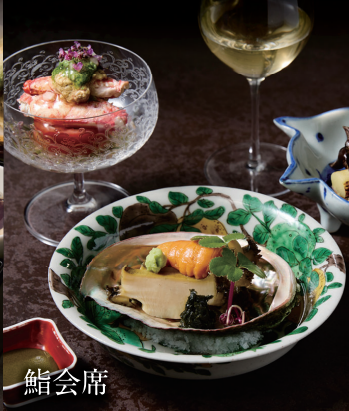
この夏、レストラン・カフェがリニューアルします！



カフェ



レストラン



鮨会席

Coming Soon

2026年8月下旬 東洋館エリア レストラン・カフェ 開業予定

2026年9月中旬 法隆寺宝物館エリア 鮨会席 開業予定



※広告掲載についてのお問合せは東京国立博物館広報室まで

東京国立博物館ニュース第785号 2026年6月20日発行(年4回発行)

編集/東京国立博物館 広報室 ©東京国立博物館 発行/東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 制作/株式会社 メディア グラフィックス

ウェブサイト <https://www.tnm.jp/> 独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト <https://www.nich.go.jp/>